



---

---

---

# AT-TQ2450 リリースノート

---

この度は、AT-TQ2450 をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。  
このリリースノートは、マニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。  
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

---

## 1 ファームウェアバージョン 1.1.6

---

## 2 本バージョンで修正された項目

---

ファームウェアバージョン 1.1.5 から 1.1.6 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 2.1 起動中にまれに本製品がハングアップし、ウォッチドッグリセットによって自律再起動することがありましたが、これを修正しました。
- 2.2 Web 設定画面の操作をしたとき、HTTP リクエストが一度に 20 件以上実行されると、イベントログや Syslog に「Max concurrent connections of 20 reached」と表示され、一部の Web 画面が正しく表示されないことがありましたが、これを 40 件まで許容できるように修正しました。また、当該ログのログレベルを Error レベルから、Warning に変更しました。
- 2.3 まれに、メモリーへのアクセスが正しく行われず、自律再起動することがありましたが、これを修正しました。
- 2.4 5GHz 帯（無線 2）において、チャンネル幅 40MHz に対応していないことを示すフラグ（Forty MHz Intolerant）が付いた接続要求を無線クライアントから受信すると、本製品は電波の送信を停止していましたが、これを修正しました。
- 2.5 クラスタ機能を使用した場合に、「WIRELESS LAN」の LED が点灯しないことがありましたが、これを修正しました。

### 3 本バージョンでの制限事項

---

ファームウェアバージョン 1.1.6 には、以下の制限事項があります。

#### 3.1 イーサネット設定

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「イーサネット設定」](#)

「イーサネット設定」画面でサブネットマスク 0.0.0.0 が登録可能です。

#### 3.2 無線

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)

- 「プロテクション」を「オフ」にしても RTS/CTS が送出されます。
- サポートレートを超えるレートで送信されたパケットを受信します。
- 「モード」を IEEE 802.11a から IEEE 802.11a/n にすると、設定の変更が直ちに反映されません。「無線 2」の「ステータス」をいったん「オフ」にして「オン」にするか、本製品を再起動してください。

#### 3.3 VAP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VAP」](#)

- IEEE 802.1X、WPA エンタープライズのセッションキー更新間隔の設定値を変更しても動作に反映されず、ブロードキャストキーの更新間隔の設定値と同一のタイミングでセッションキーが更新されます。
- ダイナミック VLAN (WPA エンタープライズ) 環境で、無線クライアントの検疫を実行するように RADIUS サーバーが設定されている場合、無線クライアントに VLAN 間ローミングが発生すると、無線クライアントの認証に失敗することがあります。
- 無線 1 と無線 2 の両方がオンに設定されている状態で、セキュリティとして WPA エンタープライズ (WPA2、CCMA (AES)) または IEEE 802.1X を選択し、VAP の 13、14、15 のいずれかの「有効」にチェックを入れて「適用」ボタンをクリックすると、該当の VAP に接続できないが、接続できても通信できません。再度「適用」ボタンをクリックするか、本製品を再起動することにより接続および通信ができるようになります。

#### 3.4 送信 / 受信

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「送信 / 受信」](#)

LAN ポートでパケットを受信した後に統計情報を更新すると、送信 / 受信の総パケット / バイト数とともに送信の総エラー数もカウントアップします。

---

### 3.5 QoS

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「QoS」](#)

- cwMin（最小コンテンツウィンドウ値）と cwMax（最大コンテンツウィンドウ値）に同じ値を入力することができます。値を変更する場合、cwMin < cwMax となるように入力してください。
- 「NoAck サポート」は機能いたしません。
- 「APSD サポート」は正常に機能いたしません。

---

### 3.6 設定、アップグレード

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「設定」](#)

[「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)

**重要：**アップグレードやダウングレード中は、本製品の無線機能が停止します。アップグレードやダウングレードは、必ず有線 LAN ポートに接続したコンピューターから実行してください。  
また、アップグレードやダウングレード中は、本製品の Web 設定画面へのアクセスや、有線 LAN ポートへのトラフィック流入をできるだけ避けてください。アップグレードやダウングレードに失敗するだけでなく、本製品が起動できなくなる可能性があります。

- バックアップ、リストア、アップグレードにおいて、設定ファイルやファームウェアファイルのフルパス名が 254 文字までしか入力することができません。
- 「保守管理」/「設定」画面の「現在の設定のバックアップ」の「ダウンロード」ボタンをクリックして「Web ページからのメッセージ」ダイアログボックスが表示されたら、直ちに「OK」ボタンをクリックしてください。「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示されますので、引き続き直ちに「保存」ボタンをクリックしてください。「Web ページからのメッセージ」ダイアログボックスが表示されたら、「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスの「保存」ボタンをクリックするまでの時間（約 15 秒）を空けると、保存された設定ファイルの一部が破損することがあります。
- ファームウェアファイルの転送中に、UTP ケーブル抜けなどにより転送が不完全状態となった場合は、本製品を再起動した後、再度アップグレードを実行してください。再起動を行わないと、アップグレード中にメモリー不足となり、リポートしてしまうことがあります。
- ファームウェア転送中に Web ブラウザーを閉じると、本製品が再起動します。再起動後は元のファームウェアで起動します。

---

### 3.7 Web 設定画面

- 「SNMP マネージャのホスト名またはサブネット」にマスク長として 33～99 の値を入力すると、画面下部にデバッグメッセージが表示されます。また、マスク長の値を 100 以上にすると「サブネットが無効です」というメッセージが表示されます。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)

- 「チャンネル自動管理」画面の「固定」チェックボックスを適用する際に、画面の下部にデバッグメッセージが表示されることがあります。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「クラスター」](#) / [「チャンネル自動管理」](#)

- Web ブラウザーのキャッシュの影響によって画面が正常に表示されないことがあります。その場合は、キャッシュをクリアしてください。

---

## 4 オンラインヘルプの訂正

オンラインヘルプ（ファームウェアバージョン 1.1.6B01）の誤記訂正です。

---

### 4.1 VAP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VAP」](#)

[「オンラインヘルプ」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VAP」](#)

「VAP」画面の「IEEE 802.1X」および「WPA パーソナル」の「ブロードキャストキー更新間隔」のデフォルト値として「300」が記載されておりますが、正しくは「0」（キーを更新しない）です。訂正してお詫びいたします。

## 5 ファームウェアのアップグレードにおけるご注意

---

**重要**：アップグレード中は、本製品の無線機能が停止します。アップグレードは、必ず有線 LAN ポートに接続したコンピューターから実行してください。  
また、アップグレード中は、本製品の Web 設定画面へのアクセスや、有線 LAN ポートへのトラフィック流入をできるだけ避けてください。

---

### 5.1 V.1.0.0 → V.1.1.6 のアップグレード

ファームウェア V.1.0.0 から V.1.1.6 へのアップグレードは、まず V.1.0.0 から V.1.1.5 にアップグレードし、引き続き V.1.1.5 から V.1.1.6 にアップグレードしてください。

 **参照** 「リファレンスマニュアル」 / 「保守管理」 / 「アップグレード」

直接、ファームウェア V.1.0.0 から V.1.1.6 へのアップグレードを行わないでください。これを行うと、ファームウェアが正常に更新されません。これを行ってしまった場合は、この状態から V.1.1.5 にアップグレードし、その後 V.1.1.6 にアップグレードしてください。

ファームウェアは、弊社ホームページからダウンロードしてください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

---

### 5.2 V.1.1.0 以降 → V.1.1.6 のアップグレード

通常のアップグレードを行ってください。

 **参照** 「リファレンスマニュアル」 / 「保守管理」 / 「アップグレード」

ファームウェアは、弊社ホームページからダウンロードしてください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

## 6 リファレンスマニュアルについて

---

最新のリファレンスマニュアル (613-001462 Rev.B) は弊社ホームページに掲載されています。本リリースノートは、上記のリファレンスマニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのリファレンスマニュアルが上記のものでない場合は、弊社ホームページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

